

連絡会ニュース

子どもと教育・くらしを守る広島県立学校教職員連絡会

No.1298 2024/08/01 (Thu)

発行 広島高校連絡会事務局

Email renraku-kuko@mx6.tiki.ne.jp

HP <http://ww6.tiki.ne.jp/~renraku-kuko/>

携帯 090-1180-7644 (村井義幸)

090-9738-8264 (望月照巳)

他人事ではなく、自分事に落とし込むとは… 沖縄戦での対照的な二人の司令官、そして沖縄県知事

広島皆実高校卒業で元TBSアナウンサーの久保田智子さん。ニュース 23 のキャスターも務めた人ですが、TBS 退社後いろんな曲折があっいまは姫路市の教育長をされています。姫路市でも原爆について伝えたいと思う彼女も、最初は「ヒロシマについて語ることで、私にはできないんじゃないか」と長い間思ってきたそうです。親族に被爆者がいるわけじゃないし、広島で平和教育を受けたものの、原爆の話は「昔話」にしか思えなかった。それがテレビの仕事をする中で私個人が向き合ってきた戦争の記憶をたどりたいたいと思うようになった。広島市の被爆体験伝承者を養成する事業に応募し、研修を重ね、20年に被爆体験伝承者に認定されたそうです。いまでも自分が語るの意味って何だろうと考え続けている。その答えは「自分の街で起きたことを入り口に、いかに自分事に落とし込むか、なのかな」…。「自分事に落とし込む」。私たちが同和教育でも平和教育でも生徒に訴え、考えさせきたテーマです。真理なのですが、本当に難しい。ガザのこと、沖縄のこと、どれだけ自分事として考えているか!? 沖縄戦での2人の司令官から考えてみました。

沖縄戦海軍司令官

「沖縄県民斯(か)ク戦へリ 県民ニ対シ後世特別ノ御高配ヲ賜ランコトヲ」(大田 実 中将)

私の2つめの赴任校が熊野高校。生徒指導部の1係にしか過ぎなかった生徒会指導を20代の若造にまかせる学校でした。その生徒会執行部が関わっていた活動に呉地区高校生平和の集いがありました。当時の呉地区は高校生の自治活動＝生徒会活動が活発で、学校の枠を超えた生徒会執行部を中心に、6月と2月に呉地区高校生平和の集いを開いていました。呉宮原高校、広高校、呉港高校、呉工業高校などを中心に実行委員会を組織し集いの準備をしていました。それに熊野高校生徒会も参加し、毎土曜日4名の生徒を連れて(私の車の乗車人数)参加していました。80年代初頭は世界的にも核軍縮気運が盛り上がり、広島高校生平和ゼミナールの活動として原爆瓦モニュメント建立運動も盛んにマスコミで取り上げられていました。呉地区高校生平和の集いも、各校から合わせて200～300名ぐらいの高校生が集い盛り上がっていました。そんななか長崎高校生平和ゼミナール・埼玉高校生平和ゼミナール・呉高校生平和の集い・広島高校生平和ゼミナールの4団体連名で「核廃絶を求める高校生の平和アピール」が、1982年6月5日発表されたのは1つの到達点でした。この「集い」を指導されていたのが当時呉宮原高校の名伯楽大田英雄先生と牧岡宏明先生でした。お二人とも平和教育や高校生の自治活動を熱心に指導され、呉地区の中心的存在でした。大田先生の実父が、沖縄戦の海軍司令官だった大田実でした。(大田先生自身の父に対する思いや沖縄への関わりは『父は沖縄で死んだ』(高文研)にあるので、本稿では略す)

この海軍部隊の司令官、大田実中将は県民を戦争にまきこんでしまった「現状を看過」できず、1945年6月6日の夜、守備隊の最期を覚悟して海軍次官当てに打った電文が有名です。自決する前に沖縄県民の悲惨なたたかいを“自分事”として感じたからなのでしょうか。

「本職県知事ノ依頼ヲ受ケタルニ非(あら)ザレドモ 現状ヲ看過スルニ忍ビズ之(これ)ニ代ツテ緊急御通知申上グ…之ヲ要スルニ陸海軍沖縄ニ進駐以来終止一貫勤勞奉仕、物資節約ヲ強要セラレツツ、只管(ひたすら)日本人トシテノ御奉公ノ護ヲ胸ニ抱キツツ、遂ニ報ワレルコトナクシテ 本戦闘ノ末期ト沖縄島ハ実情形容スベクモナシ…沖縄県民斯(か)ク戦へリ 県民ニ対シ後世特別ノ御高配ヲ賜ランコトヲ」

現代文訳《私は、沖縄県知事からの依頼を受けたのではないが、(沖縄戦)のあまりに悲惨な現状を見るに堪えず、知事に代わって緊急にご通知申し上げます。・・・沖縄(知事)の人々は、陸・海軍が当地に駐留して以来、終始一貫して勤勞奉仕、物資節約を強要されながら、ひたすら日本人としてのご奉公の護りを胸に抱いて、ついに報われることなく戦闘は推移し、この闘いの最後になった沖縄の実情は形容すべき言葉もない程の惨憺たる状況となっている。・・・先に述べたように、沖縄県民は(この激烈な攻撃に遭っても)ひたすら日本人として闘い抜きました。県民に対して、この戦争が集結した後、格別の配慮に満ちた対応をお願いします。》＝事務局＝

「秋待たで 枯れ行く島の 青草は 皇国の春に 甦らなむ」(日本軍牛島 満 司令官 辞世の句)

他方、これは沖縄戦を指揮した日本軍の牛島満司令官の辞世の句です。「秋を待たずに枯れる沖縄の若者の命は、本土決戦に勝利して春になった天皇中心の国によみがえるだろう。」という意味です。

沖縄戦は 1945 年 3 月末から米軍が慶良間諸島や沖縄本島に相次いで上陸し、3 カ月以上にわたり住民を巻き込んだ地上戦です。旧日本軍が、本土決戦までの時間稼ぎを企図したものとされます。

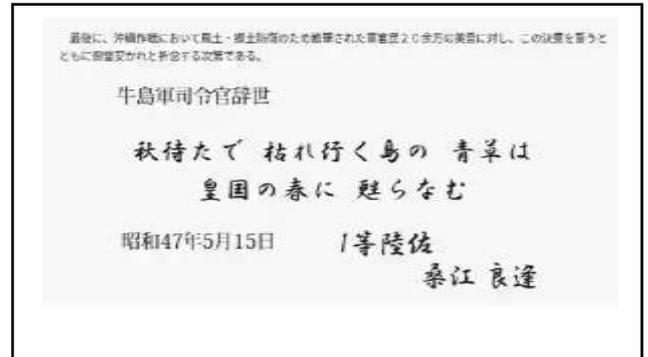
牛島司令官が自決した同年 6 月 23 日が沖縄戦の終結とされていますが、牛島司令官が自決前に出した徹底抗戦の命令に従い、その後も戦闘を続け、犠牲者を出し続ける結果となりました。

自らの無責任な「徹底抗戦」命令を合理化する為に、犠牲者の死を美化し、本土決戦の“捨て石”として大きな犠牲を出した沖縄県民に対する責任も贖罪も感じられない内容の句です。

陸上自衛隊のHPに、“辞世の句”掲載批判

沖縄の第 15 旅団のホームページにこの「辞世の句」が載っています。同旅団の前身である陸自臨時第 1 混成群の初代群長の訓示とともに。訓示は沖縄県が 1972 年に日本に復帰した際のもの。「沖縄作戦において風土・郷土防衛のため散華された軍官民 20 余万の英霊に対し、この決意を誓うとともに御霊安かれと祈念する次第である」として、沖縄戦の住民も含めた犠牲者を「散華（花びらが散るように美しく死ぬこと）」「英霊」としています。

どちらも、靖国神社など戦前の天皇制政府と旧日本軍が戦没した軍人らを美化するために用いた呼び方です。自衛隊や米軍基地の増強が強化される中で、沖縄をまたも“捨て石”にするつもりなのでしょうか。木原稔防衛相は、HPからの削除を拒否。いままHPで見ることができます。削除拒否の理由を、「歴史的事実を示す資料として掲載することが部隊の意図だった」と釈明していますが、評価抜きの歴史的事実はありません。



政治家岸田文雄首相～“どの面下げて”慰霊式(6月23日)に参列したのか！

沖縄でまた起こった米兵による少女暴行事件。3月に起訴されていたこと、5月にも同様の事件で米兵が捕まっていたことを国も警察も具に隠し続けていました。4月に岸田首相の訪米、5月にはエマニュエル駐日米大使の与那国島訪問、そして6月には沖縄県議選。不利なことは隠し続けようとする政権の思惑は、沖縄の人たちのいのちと安全より自分たちの都合を優先させたということ。しかも6月23日の沖縄慰霊の日の2日後に地元のメディアによって明らかになったのです。昨年沖縄で開かれたバスケットボールの世界カップ。岸田首相は、応援に行ったが、デニー知事には面会も挨拶すらなく素通り。岸田首相にとって沖縄は所詮他人事であることを白日の下に晒しました。

政治家 松井一実（広島市長）～平和式典にイスラエル招待は許されない！

フォトジャーナリストの安田奈津紀さんは「8月6日原爆の投下された日の平和式典にイスラエルは例年通り招かれて、パレスチナ代表部は今年も招かれない。現在進行形でイスラエルによる虐殺があり、不条理が起きている中で世界的にも知られているヒロシマの態度が、それを何か追認するようなメッセージとして伝わってしまうことをとても危惧します。」とサンデーモーニングで発言しています。

私の知る限り、彼女は「サンモニ」出演の3週続けてこの問題に対して怒りをぶつけています。長崎市とは別の対応をする松井広島市長のダブルスタンダードは決して許されない。平和や核兵器廃絶に向き合う彼のことがどこか「借りてきた言葉」のように聞こえるのは私だけでしょうか。

玉城沖縄県知事～「70人分のランドセル」を背負わされているのが今の沖縄…

玉城沖縄県知事は、沖縄の現状を訴える全国キャラバンで「私はね、トークキャラバンで最近こんな話をするんですよ。」と言わないようを紹介します。

それは、「ランドセルの話」。日本全体を、生徒が100人いる小学校1年生のクラスだとします。このクラスでは、なんと「沖縄くん」に70人分のランドセルを背負わせている。次にたくさん背負っているのが「青森くん」で9人分。「東京くん」「神奈川くん」もそれぞれ5人分背負っているという、アンバランスな状況です。

いったい「沖縄くん」はいつまで自分以外の69人分のランドセルを背負わされなくてはいけないのか。自分は手ぶらのまま「沖縄くん」に持たせておけばいいや」と思っているのは誰なのか。私はトークキャラバンの会場で「もし、この話を聞いた子どもたちにそう聞かれたら、皆さんはどう答えるのか、ぜひお考えください」と問いかけるんです。

(本間 英次